



脳卒中 心臓病



患者さんとその家族を支える

栃木県は、循環器病の年齢調整死亡率※1が高く、脳卒中は全国で男性ワースト4位、女性ワースト2位、心疾患は全国で男女ともにワースト5位(2015年調べ)という現状である。

厚生労働省では、都道府県における循環器病対策を推進するため、脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業を2022年度から開始。誰もが利用できる脳卒中の相談窓口を既に開設していた獨協医科大学病院が、初年度にモデル事業を実施する医療機関として選定を受けた。

※1 年齢調整死亡率
年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率。

取材協力: 栃木県保健福祉部健康増進課

栃木県の取り組み

栃木県循環器病対策推進計画(2021年3月策定)

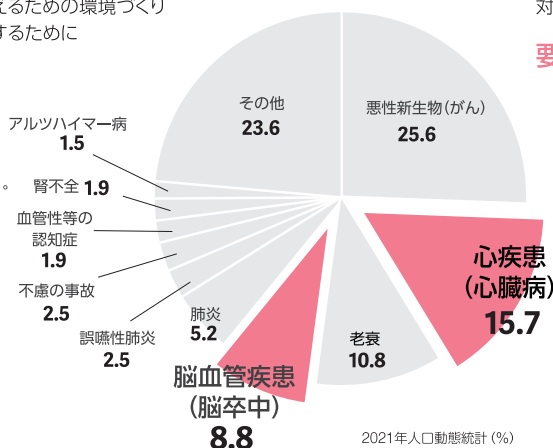
2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病※2の年齢調整死亡率の減少を目指す。

- ①循環器病予防の取り組みの強化
- ②循環器病の医療、介護及び福祉等に係るサービスの提供体制の充実
- ③循環器病患者等を支えるための環境づくり
- ④循環器病対策を推進するために必要な基盤の整備

※2 循環器病
心臓と血管の病気のこと。
心血管疾患
(狭心症・心筋梗塞など)
および脳卒中
(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)。

栃木県民の 死亡原因

脳卒中と
心臓病が
全体の24.5%を
占めている。

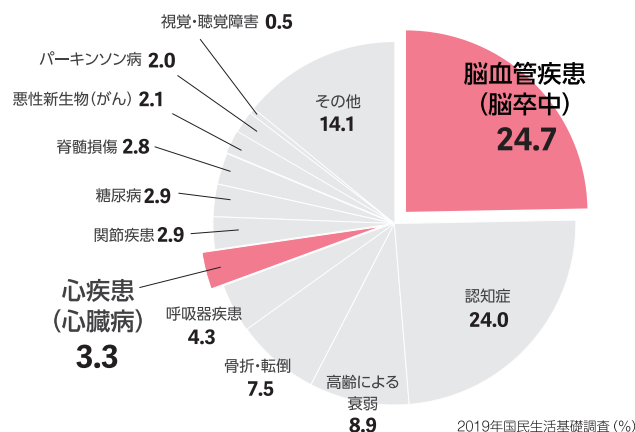


国の取り組み

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業

脳卒中及び心臓病の急性期治療の提供に加え、急性期から回復期及び維持期(生活期)まで一貫性を持ったリハビリテーション治療の提供などの取り組みを推進。患者や家族の相談支援の窓口を設置し、地域の住民を対象に予防を含めた情報提供・普及啓発の実施、地域の医療機関を対象とした勉強会の開催などを通じて、県内における循環器病対策の包括的な支援体制を構築し、地域全体の患者支援体制の充実に図る。

要介護状態(要介護5)の原因疾患(全国)



脳卒中・心臓病のサイン

脳卒中

FAST (ファスト) を覚えよう!

- F** [Face] 顔の半分が動かなくなったり、口元が下がってくる。
- A** [Arm] 片方の手足が動かない、力が入らない。
- S** [Speech] 話そうとしても呂律(ろれつ)が回らない、言葉がでない。
- T** [Time] 症状に気づいたら、すぐに受診する。

家族や自分自身に突然このような症状が現れたり、いつもと様子が違うと感じたりしたら、一刻も早く救急車を呼ぶことが大切。

心筋梗塞

胸の痛みや圧迫感
胸の絞扼感
(胸がしめつけられる感じ)

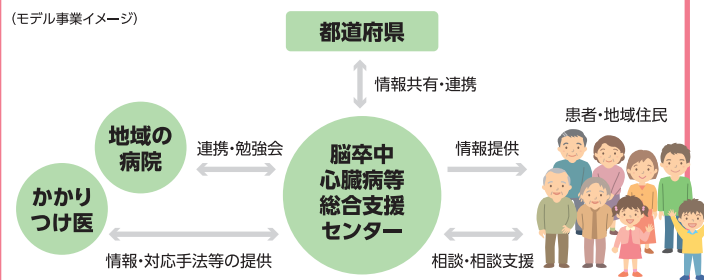
胸やけ
腕・肩・歯・あごの痛み

- ・数分～10分程度で症状がなくなる。
- ・上記症状を繰り返すことが多い。
- ・階段や歩行等により上記症状が起こる。

早い段階での気づきが重要! 気になる症状があれば循環器内科を受診しよう。

「要介護5」の認定を受ける方の約28%は脳卒中または心臓病が原因。患者さんとその家族は予備知識がなく、後遺症や支援制度などに関する正しい情報を得る方法が分からず、悩みを抱えることが多い。

悩みを抱える患者さんとその家族を支援



獨協医科大学病院
Dokkyo Medical University Hospital

受付時間: 8:00~13:00
診療時間: 9:00~16:30
休診日: 日曜・祝日・第3土曜日
年末年始 (12/29~1/3)
開学記念日 (4/23)

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
TEL.0282-96-1111 (代表)
https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/

JSA TOCHIGI

社団法人日本脳卒中協会
栃木県支部

獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等 総合支援センター(脳卒中) の取り組み



獨協医科大学病院脳卒中センター センター長 竹川 英宏

● 経歴

1998年 獨協医科大学 医学部 医学科卒
獨協医科大学 神経内科 研修
2004年 獨協医科大学 大学院 内科学(神経)修了
獨協医科大学 神経内科 助手
2009年 獨協医科大学 神経内科 講師
2012年 獨協医科大学 神経内科 准教授

2014年 獨協医科大学病院 超音波センター長(～現在)
2016年 日本脳卒中協会 常務理事・事務局長
2018年 獨協医科大学病院 脳卒中センター長・教授(～現在)
2020年 日本脳卒中協会 栃木県支部 支部長(～現在)
2022年 日本脳卒中協会 専務理事・事務局長(～現在)



※取材のため、特別な配慮のもとマスクをはずして撮影。

誰もが利用できる相談窓口

厚生労働省から2020年10月に「循環器病対策推進基本計画」が発表され、栃木県は全国に先駆け2021年3月に「栃木県循環器病対策推進計画」を公表しました。この計画では、脳卒中・心臓病・血管病の予防、医療体制の整備、患者さんが安心して暮らせる社会づくり、情報提供など多くの目標が立てられ、その中に、患者さん、ご家族の相談支援があります。獨協医科大学病院は(公社)日本脳卒中協会栃木県支部(事務局:獨協医科大学病院脳卒中センター)と協力し、2005年から電話やファクスで脳卒中に関する相談を受ける「脳卒中なんでも相談」を運営してきました(検索:日本脳卒中協会栃木県支部)。

この取り組みを活かし、さらに相談支援を拡大するため、獨協医科大学病院は2020年12月に「脳卒中・循環器病対策基本法 包括的相談窓口」を開設しました。この相談窓口の一番の特徴は、相談内容に応じて最も知識をもつ専門職が



回答することです。医療ソーシャルワーカー(MSW)、リハビリテーション専門職、看護師、管理栄養士、薬剤師、事務職、そして医師(専門医)

が運営しています。MSWが相談内容を整理し、最も適切な職種にその内容を伝え、専門職が適切な回答を用意します。また予約制となりますが、医師に直接相談することも可能です。

厚生労働省のモデル事業

厚生労働省は2022年に「令和4年度 脳卒中・心臓病等総合支援センター」のモデル事業を開始し、獨協医科大学病院がその一つに選ばれました。この「脳卒中・心臓病等総合支援センター」は予防啓発、一般の方や医療者向けの情報発信に加え、患者さん、ご家族への相談支援が重要な責務となっています。そこで「脳卒中・循環器病対策基本法 包括的相談窓口」の名称を「脳卒中・心臓病等総合支援センター 脳卒中相談窓口(および循環器(心臓・血管)相談窓口)」に変更しました。相談支援体制に変わりはありませんが、これまでの来院、電話、ファクスでの受付に加え、HPに「相談受付フォーム(メール相談)」を設置するなど相談しやすい体制づくりを進めております。脳卒中に関すること、例えば予防について、また脳卒中を思い今後どうしていけばいいか、どんなサービスが受けられるか、医療費・仕事・薬・食事・リハビリテーションのことなど、栃木県在住または勤務の方、近隣県の方であればどなたでも「無料」で相談可能です。詳細はHP(検索:獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター)をご覧ください。

病気や病後について知る

さて、患者さん、ご家族を支援できるのは私たち医療者ばかりではありません。患者さんやご家族同士が悩みを共有したり、生活の工夫や悩みの解決方法など、さまざまな情報交換を行ったりすること、同じ病気を患った方同士だからこそお互いに役に立つ情報が得られるものです。そこで獨協医科大学病院は3月23日(木)午後

1時から「脳卒中サロン」を開催することになりました。コロナ禍ということもありインターネットを使ったオンライン形式となりますが、興味のある方はぜひご参加ください。同じような症状を持つ方と友達の輪が広がるかもしれません(検索:獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター)。



そして当センターのもう一つの重要な責務である情報発信として、3月4日(土)午後2時から「市民公開講座」を開催します。脳卒中のこと、心臓病等の循環器病のことについて、専門医、専門職が分かりやすく解説します。こちらもオンライン形式です(検索:獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター)。当日は視聴者からの質問にも回答します。時間が合わずに視聴できない方も3月13日(月)～24日(金)※予定はインターネット視聴が出来ますので、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思ひます。

DOKKYO MEDICAL SCOPE
— 獨協の今を語る —

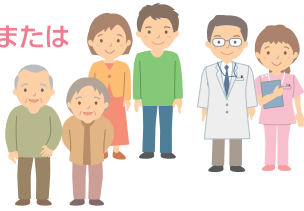
獨協医科大学病院における
心臓・血管疾患、脳卒中
に関する動画



脳卒中・心臓病等の悩み・困り事は無料の相談窓口へ

相談までの流れ

● 患者さんまたはその家族



● 相談窓口

社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格を持つ医療ソーシャルワーカー(MSW)が対応。予約制で医師に直接相談も可能。
※セカンドオピニオンを得る場ではありません。

● MSWが相談内容を確認

MSWは相談内容について、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリテーション専門職など各専門職に確認。公的医療保険制度や各種サービス、困りごとについて、相談者の条件に適合するものを確認。

● MSWから患者さんまたはその家族に回答

※内容により、専門職から直接回答する場合があります。

獨協医科大学病院

脳卒中・心臓病等総合支援センター

「脳卒中相談窓口・循環器(心臓・血管)相談窓口」

※獨協医科大学病院は脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業に採択された医療機関。



誰にでも起こる可能性がある脳卒中と心臓病。発症後、患者さんとその家族はさまざまな悩みを抱えることになる。獨協医科大学病院の「脳卒中・心臓病等総合支援センター」では、手足の麻痺や失語症、高次機能障害等の脳卒中・循環器病の後遺症に悩む患者さんとその家族が社会生活を円滑に営むため、社会参加・就労支援・経済的支援を含めた支援や福祉サービスについて、医療ソーシャルワーカー(MSW)が社会福祉の観点から対応。相談内容により、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフなどの専門職が協力することで幅広い支援が可能な体制が整っている。

相談無料

脳卒中相談窓口・循環器(心臓・血管)相談窓口

受付: 月～土曜 9:00～16:30(第3土曜および休診日除く)

対象: どなたでも利用可

(紹介状不要/獨協医科大学病院の受診歴不要)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小井880

TEL.0282-87-2185 FAX.0282-87-2067

Mail: noushinsoudan@dokkyomed.ac.jp

来院に限らず、TELやFAX、メール等での問い合わせ可。

来院の場合は事前連絡が必要。



獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター

検索

相談受付フォーム



相談事例

症状

Q.こんな症状があるがこれは後遺症か。後遺症としては一般的なもののなか、それとも何か重大な問題を抱えているのではないだろうか?

→具体的な症状を聞き、医師等に確認。

※一般的な症例をもとに回答するものであり、診断・診療ではありません。

リハビリ

Q.どのようなリハビリを受ければよいか。

→リハビリテーション専門職が状態に合わせたリハビリ方法をアドバイス。また、利用できる専門機関や付随する制度等を紹介。

社会資源

Q.障がい者手帳、介護保険等の制度や利用できる公共サービスが知りたい。

→年齢や発症後の経過期間、居住地により制度の条件が異なる。相談者の条件を確認して、制度やサービスの説明を行うと共に、相談する公的機関の窓口等を案内。

就労

Q.復職や復職後の部署異動が不安。転職先を探したい。

→復職に向けた事前準備等についてアドバイス。

転職を検討する場合は、ハローワークや障害者職業センターの利用など、必要に応じた情報を提供。

獨協医科大学病院主催 市民公開講座&脳卒中サロン

オンライン・事前申込・参加無料



QRコードから申し込みフォームへ。
必要事項を入力の上、申し込み。
※参加にはWeb会議ツール「ZOOM」が必要です。
申込者には、ZOOMのIDとPWの連絡あり。



市民公開講座の「オンデマンド配信」もこちらから

脳卒中サロン 日時:3月23日(木)午後1時～

● ミニ講座

脳卒中はもう起こさない!
そして楽しく過ごそう!

講師:竹川英宏教授(20分)

● おしゃべり会 (40分)



市民公開講座 定員450名

日時:3月4日(土)午後2時～

オンデマンド配信(視聴予約不要)
3月13日(月)～24日(金)※予定

知って欲しい!脳卒中・心臓病の話!

～みんなで支える相談支援:脳卒中・心臓病等総合支援センター～

● オープニング

「栃木県の脳卒中・心臓病対策について」
栃木県保健福祉部保健医療監

岩佐景一郎先生(5～10分程度)

● 講演1 「知って欲しい!脳卒中の話!」



講師:脳卒中センター 竹川英宏教授
(30分講演+質疑5分)

● 講演2 「知って欲しい!心臓病の話!」



講師:心臓・血管内科/循環器内科 豊田茂教授
(30分講演+質疑5分)

● 相談支援紹介

医療ソーシャルワーカーから
相談窓口の利用について紹介。
(5分程度)